

目次

(総論) 「転換期の国際社会」を知識人たちはどう論じたのか	萩原 稔 伊藤 信哉
一 本書の特徴——「知識人」の範囲、さらに「対外認識」に関して	2
二 各章の内容と執筆者について	5
第一章 五・四運動以後の日本知識人の中国認識	
—— 矢野仁一 <small>じんいち</small> と内藤湖南	萩原 稔
一 「中国認識」の多様性	22
二 矢野仁一——「支那非国論」の意味	24
三 内藤湖南——中国の「特殊性」への認識	34
四 両者の中国認識とその意味	46

第二章 大村欣一東亜同文書院教授の中国認識

——一九一〇～二〇年代の研究とその特徴	武井 義和
一 知られざる中国研究者	66
二 大村欣一について	67
三 著書『支那政治地理誌』について	70
四 『支那政治地理誌』以後の中国認識	84
五 おわりに——大村欣一の中国研究とその学生への影響	99

第三章 近代日本における「文化主義」の登場とその展開

——桑木厳翼・金子筑水・土田杏村	大木 康充
一 「文化」は「軍国主義」に対抗しうるか	110
二 文化主義の創案者桑木厳翼	114
三 金子筑水の「芸術主義」的文化主義	122
四 土田杏村による「文化主義の適用」	131
五 「教養の時代」と文化主義のその後	143

第四章 国際問題評論家の対外認識

——稲原勝治と米田実	伊藤 信哉
一 「国際問題評論」の登場	154
二 協調か孤立か——一九一九～二四年	159
三 政党内閣の時代——一九二五～二九年	170
四 国際問題評論家の役割	182

第五章 再生産されるモンゴル認識

——善隣協会調査部と戦時下のモンゴル研究	鈴木 仁麗
一 多様ななき「モンゴル認識」	198
二 財団法人善隣協会の設立とその基盤	201
三 善隣協会調査部	206
四 後藤富男の仕事	222
五 使命感の再燃——おわりに	235

第六章 清沢冽きよざしの国際水平運動

——〈植民地・社会主義コロニアルソシアリズム〉の視角から

上田 美和

- 一 社会主義を標榜する自由主義者?..... 246
- 二 対外認識と自国の位置..... 248
- 三 国際的社会主义としての世界再分割論..... 254
- 四 戦後構想における世界再分割論..... 267
- 五 国際水平運動の真意——むすびとして..... 273

第七章 戦前・戦中・戦後直後娯楽番組の連続性と政治性

——丸山鐵雄の番組制作と大衆芸能論を素材として..... 尾原 宏之

- 一 「政治的」娯楽番組の困難..... 288
- 二 日中戦争と「ラヂオ芸術」の暗闘..... 289
- 三 制作者丸山鐵雄の「新体制」と「聖戦」..... 301
- 四 敗戦——「半植民地」としての日本..... 319
- 五 むすびにかえて..... 328

第八章 外務省と日本の国連加盟外交

——米ソ冷戦の狭間で..... 種稲 秀司

- 一 国連中心主義か、日米関係か..... 338
- 二 占領期日本にとっての国連——名としての国連、実としての日米安保体制へ..... 340
- 三 主権回復直後の国連加盟問題——「ウエスターン・デモクラシー」の場..... 346
- 四 日ソ国交正常化交渉の開始と国連加盟問題..... 349
- 五 国際世論による対ソ圧力と日ソ交渉——重光外相の訪ソまで..... 355
- 六 スエズ危機への対応意義と国連加盟の実現..... 359
- 七 国連加盟外交にみる外務省にとっての国連——むすびに代えて..... 364

第九章 海上自衛隊の創設における旧海軍軍人の動向と対外認識..... 畑野 勇

- 一 はじめに 課題と視角..... 386
- 二 米海軍軍人の役割..... 395
- 三 戦略構想と兵力量の策定——対潜護衛への特化へ..... 400
- 四 「海軍再建」に関与した旧海軍軍人の「海軍政策」と対外認識..... 411
- 五 おわりに 専門的見地に止まらない海軍政策樹立の重要性について..... 421

第二〇章 「改憲派」の再軍備論と「日米同盟」論

—— 徳富蘇峰・矢部貞治^{ていじ}・中曽根康弘 …………… 小宮 一夫

- 一 徳富蘇峰、矢部貞治、中曽根康弘の再軍備論を問う意義…………… 434
- 二 日本国憲法制定から朝鮮戦争期にかけての冷戦認識と再軍備論…………… 436
- 三 保守合同から安保改定に至る時期の冷戦認識と再軍備論…………… 453
- 四 憲法九条と自衛隊の日本社会における受容と矢部・中曽根の安全保障観…………… 461
- 五 徳富蘇峰、矢部貞治、中曽根康弘にとつての再軍備論と「日米同盟」…………… 471

あとがき …………… 483